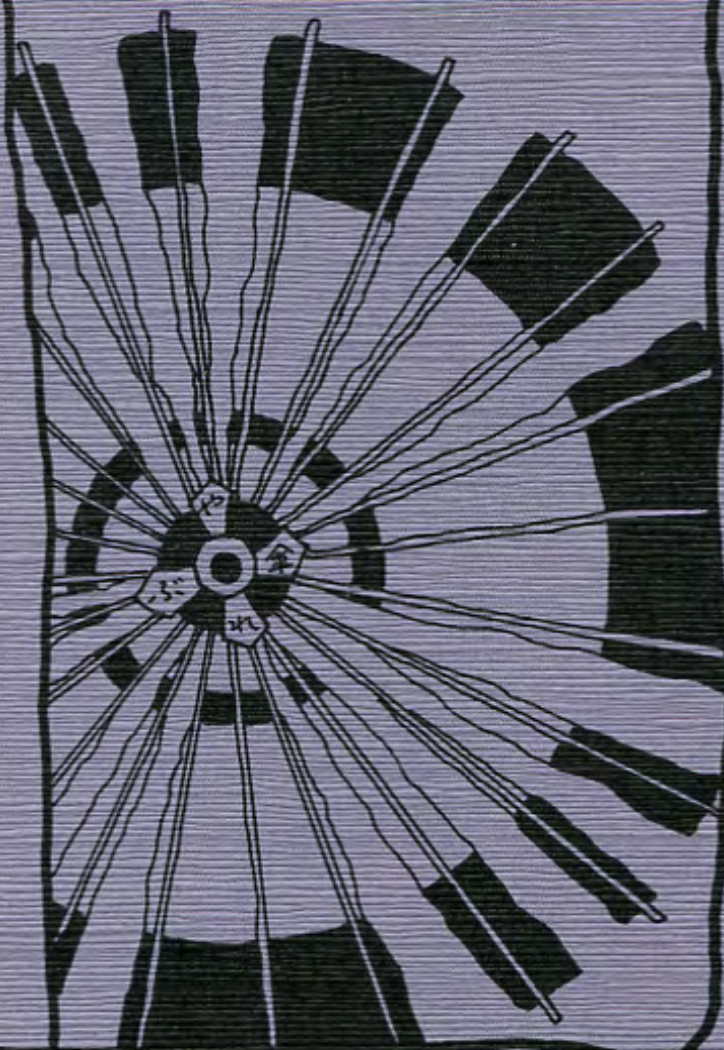


# やぶれ傘



七十二号

二〇二三年六月

小魚のさらりと描かれ麻のれん 根橋宏次

伏流水ここより春の川として 小川 滋

ずぼん吊りピンと弾いて夏来る きくちきみえ

よき風の中にアスパラガスの花 大島英昭

つと触れてまた触れてみるおじぎ草 廣瀬雅男

青楓鶯張りに節の穴 丑久保 勲

へネシーとポトルシツプと水中花 瀬島酒望

梅雨暗れ間ビルの間を日が落ちてゆく 藤井美晴

花うつぎ鳥啼き雲はちぎれゆく 安藤久美子

かげろふの道行く先をゆらすかな 白石正躬

春灯にガレの花瓶の浮くことし 國保八江

いつになく濁れる川を初燕 渡邊孝彦

天井に蜘蛛ある夜を眠りけり 小山陽子

つまはじくたんぼほの絮午後に入る 久世孝雄

仁王像の腹に罅割れ棕櫚の花 有賀昌子

抄 集 句 傘 れ ぶ や

大 崎 紀 夫 選

芽吹きたる銀杏並木をランドセル 松村光典

姥捨ての棚田に蝶と石仏 秋山信行

田境の畦黒々と野焼きあと 石原健二

初蝶の飛ばされてをり飛んでをり 大野芳久

和菓子屋の袋に百首うららけし 奥田温子

舞ひ終へて巫女の出てゆく若楓 上林富子

白鷺の紙を散らしたやうであり 菊地葉子

リヤカーの大籠揺るる春落葉 忽那みさ子

売り家あり庭に竹の子顔を出し 小池一司

墓地掃きて春の日ぐれとなりにけり 小巻若菜

夏来る店先に古書積みあげて 齋藤朋子

古稀の身に描く夢あり春田打つ 齋藤 博

柔らかに土盛り上げて地虫出づ 時田義勝

待ち合はす雨の銀座へ単衣着て 貫井照子

山影を列車一輛花菜雨 廣瀬 濟

花うつぎ

安藤久美子

道祖神どこもかしこも鼓草  
蝌蚪の紐曖昧模糊と静かなる  
城壁を登り来る風諸葛菜  
常の猫常の辺りを目借り時  
ふらここを漕ぐ影ふたつ擦れ違ふ  
風船の紐のあまたを手にピエロ  
ぱたぱたと俄雨来る著莪の花  
花うつぎ鳥啼き雲はちぎれゆく  
風荒れの日の黒揚羽風と失せ  
棕櫚の花旅の鞆は引いてゆく

かげろふ

白石正躬

付き合ひの花見に歩き疲れけり  
野遊びや子供の後を追ひかけて  
川風やちらばつていくしゃぼん玉  
花びらの谷へおちゆく山桜  
土筆ん坊お墓の横にぞくぞくと  
春雨や毘沙門天に着いてより  
かげろふの道行く先をゆらすかな  
灯を消せば寝間に春蚊の羽音して  
河岸に釣竿ならび春暮るる  
木の雫落とし五月の風通る

牡丹

國保八江

聞き慣れぬ囀り耳に小昼かな  
掌で計るきぶしの花の房の丈  
用水の流るる音と囀りと  
突然に玩具の喋る花の昼  
土筆野に足の踏場を捜しけり  
春灯にガレの花瓶の浮くごとし  
花蘇芳置き薬屋の荷を拵げ  
牡丹見て牡丹の写真見て帰る  
山藤やバスは越後の湯沢へと  
石庭の石の間の竹落葉

初 燕

渡邊孝彦

花屑は川岸寄りになりけり  
いつになく濁れる川を初燕  
田返ししの土に癖ある臭ひかな  
羊蹄しぎ花しや瓦礫の先に畑ひらけ  
鈴掛の根もとの瘤や夕薄暑  
水門に水位しるされ姫女苑  
青蘆や川で水浴びする鴉  
くれなづむ頃を鳴きけり枝蛙  
骸骨柄の夏帯で来るをんかな

蜘蛛

小山陽子

春疾風ふと暗くなる部屋の中  
綱渡るレスキュー隊や夏隣  
イヤホンを外せば春の夜は更けて  
社殿には草履が二足春の暮  
若芝を鳩と並びて歩きけり  
庭望む豊ひやりと春の午後  
たんぽぽの絮線香に花立てに  
道を塞く柵の向かうに白躑躅  
天井に蜘蛛ぬる夜を眠りけり  
少年に挨拶さるる五月かな

夏ズボン

久世孝雄

川 辺 り へ 雪 崩 打 つ か に 芝 桜  
川 岸 に 古 き 洋 館 紫 木 蓮  
夕 餉 に と つ ぼ み の ま ま の 菜 花 摘 む  
あ た た か や 幼 馴 染 を 待 つ ベ ン チ  
花 筏 大 戸 の 堰 を 越 え ら れ ず  
つ ま は じ く た ん ぼ ぼ の 絮 午 後 に 入 る  
裏 木 戸 に し な だ れ か か る 大 て ま り  
風 薫 る 橋 の 真 中 に 佇 み て  
壁 泉 の 獅 子 の 眼 隠 す 蔦 若 葉  
野 良 着 と せ ん 膝 の 抜 け た る 夏 ズ ボ ン



棕櫚の花

有賀昌子

花曇水のほとりのカフェテラス  
櫂やすめゐれば桜の枝触れて  
蝶の昼ここは三菱一号館  
境内の手水の音や花木五倍子  
さくら散る車椅子にもひとひらが  
春眠を貧る猫を描きけり  
春寒や坐して万治の石仏  
融けかけの飴へとつづく蟻の列  
仁王像の腹に罅割れ棕櫚の花  
菖蒲湯に夫と孫とのこゑ高し

若葉の風

松村光典

芽吹きたる銀杏並木をランドセル  
桜葉降る木の下の地にまろく  
春が来て二人の友を送りけり  
春なれや団地の池に鷺一羽  
雀の子風に吹かれて散りゆける  
目をつむりベンチにあれば春の風  
とりどりの草木の緑五月来る  
若葉萌ゆベンチ見下ろす鳩二匹  
ジャスミンとテッセン庭にほひけり  
ペダル漕いで若葉の風を渡りけり

漕艇のオール並べて水温む  
 水温む水面をたたく鯉の群  
 両岸の桜吹雪を橋に立ち  
 野遊びの餓鬼大将のこゑのとぶ  
 春寒しの堂の暗きに阿弥陀仏  
 脱げざれず宙ぶらりんの竹の皮  
 一枝は海に迫り出す松の花

山本千夏

行く道に黒雲おこす野焼きかな  
 春の暮れ夕日が沈む雲の中  
 魚干す横かから子猫顔をだし  
 雪のひまに芝あらはるゴルフ場  
 更衣足元に軽く待ち合はす  
 蒸し暑しますトの音で目を覚ます

湯本正友

喜 贈 小 身 山 妹 朝  
寿 ら 流 を 法 の ご  
と れ れ 反 師 り と  
な し の ら の ハ の  
る 新 飛 し 高 に 花 ビ 弁  
夫 茶 石 き 群 リ 当  
に に ぐ に 搜 る 羽 新  
届 ラ る べ り す 音 竹 学  
き ベ ル り す 音 竹 学  
し ル り す 音 竹 学  
胡 検 夏 朴 の か な 草 期  
蝶 査 落 葉 花 な 草 期  
蘭 濟 葉 花 な 草 期

秋元久子

更 庭 妻 車 花 頼 か  
衣 隅 宛 停 ま も  
今 を の め れ め  
年 埋 宅 し 道 て 連  
も め 配 ば に 孫 れ  
人 受 の 猫 と 港  
に 蒲 け 仮 寝 留 出  
遅 公 英 春 春 番 守 船  
れ 絮 春 春 港 水 番 守 船  
け 放 の の 港 水 番 守 船  
り つ 昼 昼 町 む 風

湯本実

## ◇ 7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	3日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	27日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	平林寺	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

8月18日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR武蔵野線北朝霞駅改札口。吟行地は平林寺。句会場はJR武蔵浦和駅西口前 さいたま市南区役所内・武蔵浦和コミセン第1集会室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565  
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ